

彙報

一 京都哲学学会公開講演会記事

恒例の京都哲学学会公開講演会は、平成十三年十一月三日（土）午後一時半から、京都大学文学部新館第三講義室において左記のごとく行われた。

一、水とワイン——スコラ神学者の〈哲学〉

京都大学助教授 川添 信介  
京都大学教授 藤田 和生

講演会は数多くの会員の方々の出席を得て盛会であった。また講演会終了後、京大会館において懇親会をもち、多数の会員が講演者と共に討論と歓談のセッションの一時を過ごした。

二 外国人学者来訪講演会記事

平成十三年七月より、平成十三年十二月末までに、京都大学大学院文学研究科の旧哲学系諸研究室の主催ないし共催のもとに行われた、外国人学者による講演会は次の通りである。

蔣 述卓氏（暨南大学中文系教授）

「中国仏教と美学——中国の自然観と宇宙観」

平成十三年八月十八日 於京都大学文学部新館第一講義室

下 崇道氏（中国社会科学院教授）

「現代中国の日本哲学研究」

平成十三年九月二十六日 於京都大学文学部

ペーター・ベルトナー氏（ミュンヘン大学教授）

「みせかけか変容か——西洋哲学の日本思想への影響」

平成十三年九月二十六日 於同

ドロシー・フラゲイジー氏（ジョージア大学教授）

「時空間における行為と物体のオーガナイジング——我々は猿から何を学べるか」

平成十三年九月二十六日 於同新館第三講義室

エルンスト・シュタインケルナー氏（ウィーン大学教授）

「再論——なぜ仏陀の言葉は信頼しうるか」

平成十三年十月二十日 於同

マリリーナ・グルジニッチ氏（スロベニア科学・芸術アカデミー

科学研究センター研究員）

「無重力と時間の記憶化」

平成十三年十月三十日 於京大会館

三 京都大学文学部（哲学系）卒業論文題目

——平成十三年三月——

哲学

薄井 尚樹 クワインの知識論について

畑山 尚史 『プラグマティズム』におけるジェイムズの真理論

前田 武 J・P・サルトル『弁証法的理性批判』の研究

松本 圭右 『純粋理性批判』におけるカントの形而上学

中村はぎ乃 『存在と無』におけるサルトルの人間像

西洋哲学史

足久保華代 徳の教育—プラトン『ラケス』を中心に—

上田 寛子 勇気は知であるか―『ラケス』における勇気の探求から―

中村 周平 マキャヴェリにおける運命と自由

森 健一 トマス・アクィナス『神学大全』第一部第一三問題における神名“Qui est”について

### 倫理学

井上 真吾 外国人参政権の根本問題

三輪 恭久 デューイにおける「成長としての道徳」

松永喜代文 アダム・スミス「道徳感情論」における道徳感情の腐敗について

### 宗教学

勝又由美子 デカルトのコギトと構造主義

高橋 康介 哲学的人工知能論

平野 徹之 ホワイトヘッドの科学哲学における自然認識の問題

村上 竜太 宗教のかたち

### 美学美術史学

稲垣江里子 日本絵画に描かれるもみじの役割について

宇津 篤朗 ロバート・シオドマクのハリウッド時代

北原 雅子 東山魁夷の日本画における洋画的表現

杉山 卓史 カント美学試論―『判断力批判』の現代美学のモデルとしての可能性―

鈴木 春奈 ダニエル・ビュラン―アートにおける既存概念の破壊と再構築―

仲谷 桃 恐怖映画に見る日常性と非日常性の隣接と乖離

宮崎 もも 酒井抱一の琳派受容とその展開

大西 浩之 つげ義春のマンガ表現法

橋本真理子 ルネ・ラリック作品の変遷について

堀 尚子 ティツィアーノ「聖愛と俗愛」について

太田 拓子 絵巻『芦引絵』の錯簡について

夏目 雅也 演劇における「社会的」問題

### 中国哲学史

永渕 正是 孝経及び孔伝・鄭注の思想と時代背景

### インド哲学史

八木 綾子 Mahabharata における Lokapala 研究

内藤 博介 Kama Sutra 研究

### 心理学

蒔田 佳代 ワーキングメモリ課題の処理作業が読解力に及ぼす効果

足立 幾磨 動物における概念形成の比較研究

飯田さやか 好印象顔の視覚探索

岩田 佳奈 手がかり物体と目標の位置関係がハムスターの空間表象に及ぼす効果

江尻 育世 ウォーキング・ディスタンスにおけるポインティン

グ動作のストラテジーの検討

佐伯 麻衣 空間把握における距離、方位およびランドマークの効果

杉浦 正武 プライミングを用いた潜在記憶の研究  
仲田 舞 干渉課題を用いた手話の記憶メカニズムに関する研究

究

福井 隆雄 到達把持運動における視覚フィードバックの役割  
上村 幸子 色の進出・後退現象  
田淵 直 把持対象の形状から手の形を計算する神経回路モデル

龍味 文人 ハムスターの教認識について

社会学

赤木亜希子 子どもの変容

岩田 紘治 引きこもりをめぐる考察

上西 美紀 現代日本社会とNPO

右近 綾子 同和教育の変遷に関する社会学的研究

遠藤 理子 後期ミード理論の考察

奥村 信哉 コンビニエンスストアに関する考察

門田 圭一 現代社会における教育

木村亜由美 現代通信販売の社会学的研究

久保田智行 総合型地域スポーツクラブの社会学的考察

斉藤 初恵 摂食障害者の手記による分析

佐々木雅彦 プロ野球ファンの社会学

澤登 由枝 近代日本の天皇観

杉田 健一 戦後日本家族に関する考察

関岡 弘美 現代日本の食生活に関する社会学的考察

東井 雅志 百貨店と消費社会のかかわりについての社会学的考察

察

平井 亜紀 現代日本の若者と音楽

三浦 歩空 帰国子女のアイデンティティに関する社会学的考察

猪熊 恵子 国家総動員体制と福祉政策に関する一考察

太田 農 音楽視聴者の社会的変遷

岡田 知朗 プロレスの研究

神谷康次郎 メディア・リテラシーに関する社会学的考察

北川 陽介 現代テレビ番組の研究

木下 荘平 結婚神話の社会学

嶋津 史 日本の喫茶店文化に関する社会学的考察

田中 信雄 「マラソン」の社会学的考察

長谷 貴彦 性の境界を超える人々の社会的世界

羽田 真永 モータースポーツとそのファン及びメディアの関係

前田 陽乃 近代日本の宗教観

真柄 知里 日本における多文化共生社会への実践についての考察

社会学

三ツ橋耕平 ドラッグの社会学

三宅 克幸 「笑い」の社会学的考察

片田 朝日 ネイション／エスニック共同体と逸脱の社会学

科学哲学科学史

国代 尚章 Robert Boyleの空気の研究

山下 幸宏 遣伝子から自己複製子へ

高田 崇司 公理的集合論による実数論展開

四 京都大学大学院文学研究科(哲学系)博士前期(修士)

課程修了論文題目——平成十三年三月——

哲学

枝村 祥平 ライブニッツにおける個体概念  
三宅 岳史 ベルグソン哲学の持続と時間の関係について

西洋哲学史

早瀬 篤 プラトン『ソピステス』258d—263dにおける虚偽論

中村 健 プラトン『ソピステス』における像と現れ  
成瀬 雅也 カントの経験概念における関係のカテゴリーの意義について

山岸 泰道 知性と魂をめぐる——プラトン『ピレボス』からの一試論——

日本哲学史

杉本 耕一 西田哲学における「種」の問題

倫理学

神崎 宣次 ハーバート・サイモンの合理的意思決定論  
佐々木 拓 ジョン・ロックにおける意志の自由論

宗教学

伊原木大祐 レヴィナスと無始源の問い

筒井 史緒 生きられる世界—W・ジェイムズ『根本的経験論』を中心に—

キリスト教学

近藤 剛 懐疑者の義認—前期テイリッヒにおける信仰義認論の再解釈—

佐藤 啓介 中期リクールにおける宗教言語論の二極構造について

美学美術史学

李 淑珠 「サムシング Something」を描く—陳澄波(一八九五—一九四七)の画風形成について—

中国哲学史

小林 大輔 荀子「後王」研究—特に、戦国諸子に於ける「先王」思想との係わりについて—

山口 円 『論衡』における讖緯観についての一考察  
土居 尚彦 劉逢禄の春秋学における三統説の位置づけ

仏教学

加納 和雄 チベットにおける『宝性論』の受容と展開  
心理学

栗畑 裕子 霊長類における顔図形認識の発達  
小島 隆次 運動体の軌跡に関する視覚的推認  
葭田 貴子 ポップアウト・ブライミングに関する研究

社会学

菊地 夏野 占領期沖繩の性暴力と売買春

小島 剛 リスク社会の社会理論

竹内 里欧 近代日本における礼儀作法書の歴史社会学的分析

西川 知亨 ゴフマンの「相互作用秩序」の研究

上村 岳生 近代国家と社会統合の問題

翁 和美 現代日本における老人のセクシュアリティの社会学的考察

赤枝香奈子 『青鞥』における「女」カテゴリーの生成

科学哲学科学史

瀬戸口明久 L・O・ハワードと第一次世界大戦期アメリカにおける応用昆虫学の展開

網谷 祐一 生物学的種概念(マイアー説)の検討

五 京都大学大学院文学研究科(哲学系) 博士後期

課程学修者氏名——平成十三年三月——

哲学 中野安章 西村正秀 吉田寛 アンドレア・レオナルディ

西洋哲学史 関沢和泉 村上正治

日本哲学史 水野友晴 呉光輝 デイビス・ブレッド

宗教学 後藤正英 杉岡正敏 関根小織

キリスト教 金井由嗣

美学美術史学 市川彰 林聖智

心理学 栗津俊二 十河宏行 内藤智之(以上三名 学位取得)

社会学 阿部利洋 石田あゆみ 井戸聡 松浦雄介 楊聡

\* お詫び

前号(五七二号)彙報の「三 京都大学大学院文学研究科・京都大学文学部(旧哲学科系)講義題目—平成十三年度—」の社会学のところ、次の大学院用の授業科目が抜けておりました。お詫びして追加させていただきます。

〔特殊講義〕

東南アジア研究センター教授 立本 成文 地域研究と比較社会学

留学生センター助教授 蘭 信三 民族・国家・エスニシティ論の批判的検討

〔演習〕

教授 宝月 誠 社会学の諸問題

教授 井上 俊 文化社会学の諸問題

助教授 松田 素二 民族文化の諸問題

助教授 田中 紀行 マクロ社会学の諸問題

併任教授 高坂 健次 比較社会学

併任助教 落合恵美子 家族とジェンダーの比較社会学